

2024. 12. 1

一般社団法人

日本カウンセリング学会会報

No. 127

一般社団法人 日本カウンセリング学会 〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-2 佑和ビル2F
☎ 03 (6304) 1233 <https://www.jacs1967.jp/>
(発行責任者 沢宮容子 / 編集責任者 八島禎宏)



日本カウンセリング学会第56回大会を終えて

第56回大会長

明治大学 諸 富 祥 彦

祭りが終わった。2024年度の日本カウンセリング学会大会が終わった。

大会準備の支援をしてくださった筈田育子さんとはCESCでロジャーズのカウンセリングを学び続けた仲間であり、ところが通い合った同志である。今も、CESCでほんもののロジャーズ派のカウンセラーを育成したいという共通の思いから、日本ではじめての「体系化されたPCC（パーソンセンタードカウンセラー）養成講座」をおこなっている。これも私が言い出しっぺであり、私の夢を筈田さんが共有し具体化してくださった。感謝しかない。そんな筈田さんから大会委員長をしませんか、と打診された。

私は、事務能力にきわめて乏しく、いつも夢見がちに生きてきた人間である。昔ながらの学者さんタイプである。それを理由にどの学会の大会委員長もお断りしてきた。ひとさまに迷惑がかかるからである。しかし筈田さんは「私がサポートするから大丈夫。先生はアイデアと旗振り役さえやってくればいいのよ」と言ってくださった。断る理由がなくなった。

のびのびと、大会委員長をさせていただいた。当日会場は満員になり、入場をお断りした（もっと広い教室を探したが空いていなかった。来場を希望された方にはたいへん申し訳ありませんでした）。松本俊彦先生のパッションあふれた講演にはじまり、「カウンセリングにおける統合」という最重要テーマでシンポジウムをおこなった。ユング派をベースに「何でもできる」統合療法を実践されている福島哲夫先生を中心に、精神分析の若手の騎手山崎孝明先生、ソリューションフォーカストの黒沢幸子先生、そしてロジャーズ派の私が加わり、実践的なディスカッションをおこなった。公開スーパービジョンでは教育相談のケースを本学会会長の沢宮容子先生、福島哲夫先生にていねいにご指導いただいた。最後に、私がファシリテーターとなって、カウンセリング学習にまつわるテーマを抱えたクライアントの方のグループカウンセリングをEAMAという独自の手法で会場全体を巻き込みながらおこなった。その後も、オンラインでの大会は続き、富士見幸雄先生、平本あきお先生によるオープンカウンセリング、滝川一廣先生によるオープンスーパービジョンといずれも盛会だった。

「カウンセリングを実際に日々、おこなっている人の学びになる大会にしたい」という思いから、二つの公開スーパービジョンと三つのオープンカウンセリングを大会の核にした。ここは大切にしたい。

夢のような、あっという間の時間だった。この暑い夏を象徴する祭りのような大会だった。

筈田先生をはじめ、大会の実現をサポートしてくださった準備委員の先生方、ご参加いただいた皆様
に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。